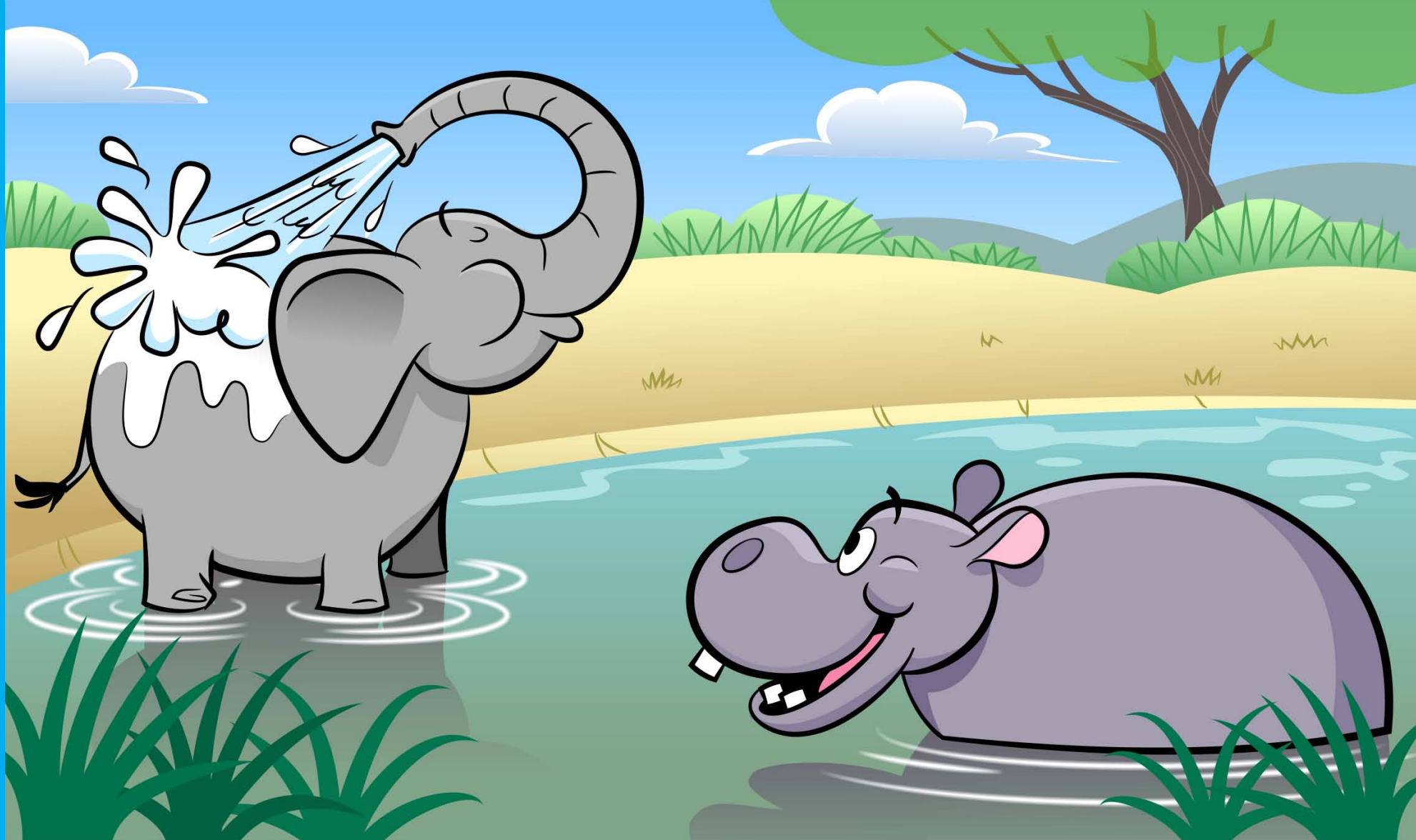


はな おお 鼻が多ければ、仕事は楽になる



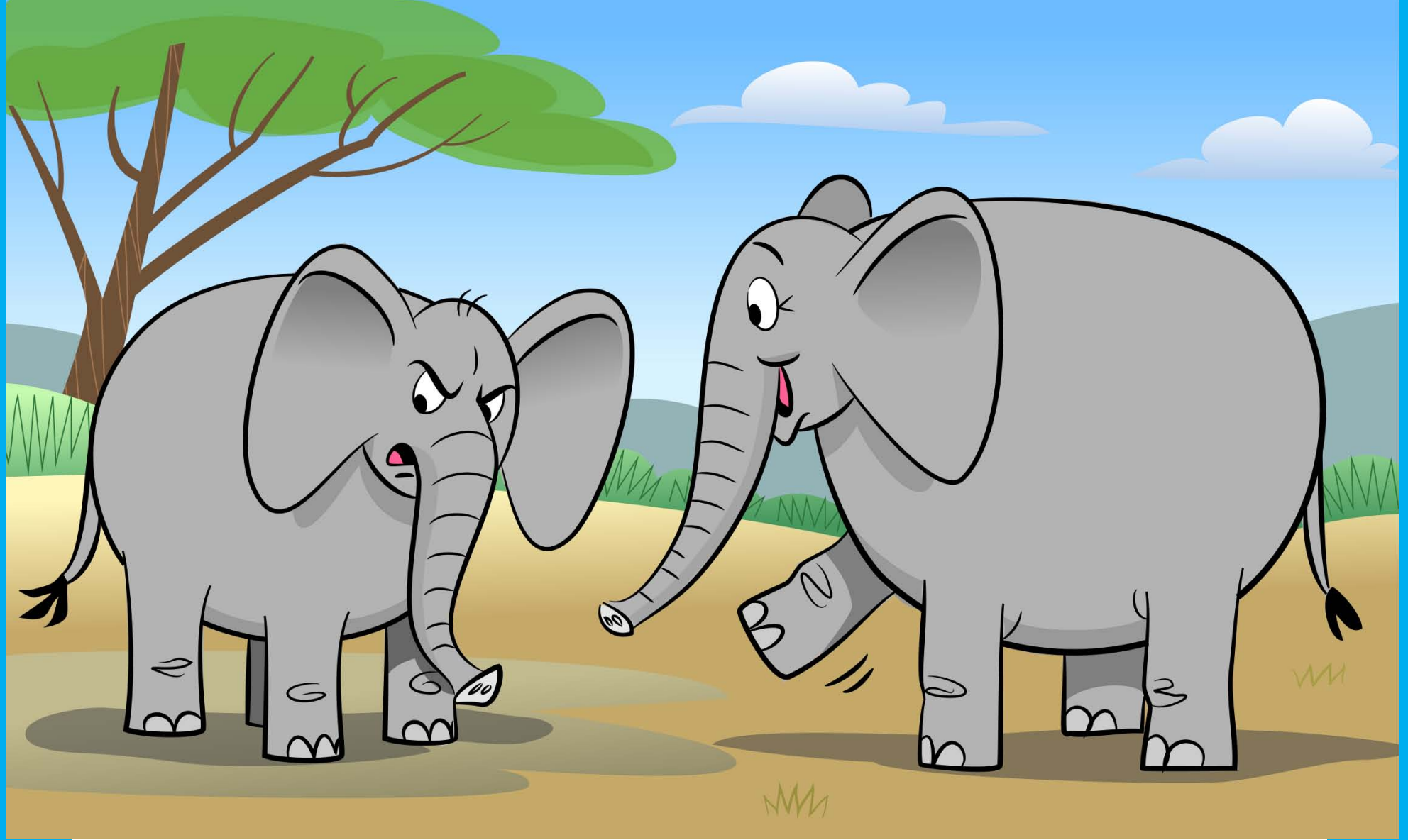
あるところに、トロンゴという子ゾウがいました。トロンゴは、母さんゾウやほかのゾウの家族に囲まれて、サバンナで育ちました。トロンゴの群れは、食べ物をさがしながら草原を移動してくらしていました。そして、食べられる草木がたくさんあり、水もある場所が見つかったら、その水がかわききって食べ物がなくなるまでは、そこにとどまりました。

トロンゴは、毎日すくすくと大きくなりました。まだ生まれたばかりの時は、立ち上がって歩くことを学ばなければなりませんでした。今は、自分の鼻を使って、いろいろとおもしろいことをまなでいるところです。重い物を持ち上げたり、水を飲んだり食べ物を食べることはもちろんのこと、暑い時には自分で水をかけたりなど、ゾウのくらしに必要なあらゆることです。



トロンゴは、友だちの カバ、リンゴとおしゃべりしながら、水
たまりで 水浴びをするのが 大好きでした。毎日 暑いので、水
の中 すすむのはいつでも 気持ちの 良い ものです。けれども、
1日中 水の中 にいるという わけにも いきません。良い ゾウ
になるのに 必要な ことを すべて 身に 付けるため、一生けん命
勉強 しなければならなかったからです。

トロンゴは たくましい ゾウに 成長 しましたが、自信満々で
えらそうに ふるまうことも ありました。何でも 自分だけで でき
るし、ほかの ゾウの 助けなど 全く いらないと 思うようになった
のです。たいていの ことは 自分で ちゃんと できるようになった
のは 確かですが、ある日 トロンゴは、いっしょに やるほうが い
い こともある、という ことを 学びました。

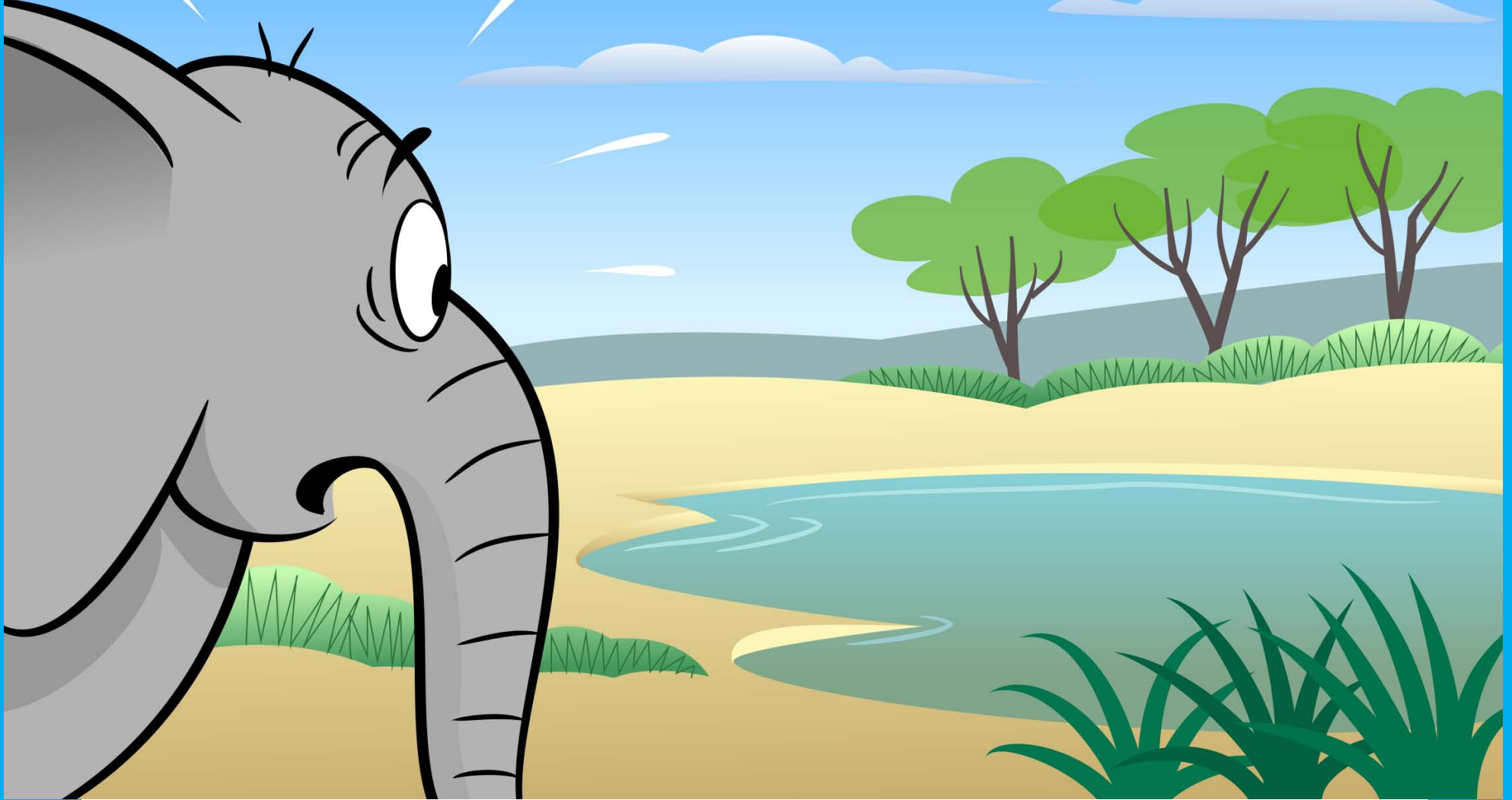


「おはよう、トロンゴ。」 ^{かあ}母さんゾウの ^いカラーナが ^い言いました。
「夕べはよく ^{ねむ}眠れた？」 「うん、^{ねむ}眠れたよ。」とトロンゴ。

「今日は、お友だちの ^{またり}マタリの ^{しごと}仕事を ^{てつだ}手伝ってあげては どう
かしら？」と、^{かあ}母さんゾウが たずねました。マタリも、トロンゴの
^む群れの ^{わか}若いゾウです。トロンゴと ^{またり}マタリは、あまり ^{なか}仲がよくあ

りませんでした。2頭は ^{どう}いつも、おたがいよりも ^よ良くやろうと ^は張り
^あ合っていました。そして、^む群れじゅうの ^{しぶん}ゾウに、^{じぶん}自分の ^{ほう}ほうが
^{つよ}強くて ^{かしこ}賢いゾウだと ^{みと}認めてもらいたがっていたのです。

「なんで、^{しぶん}自分の ^{しごと}仕事を ^{ひとり}一人で ^いできないんだい？」 トロンゴ
が ^いぶつぶつ ^い言いました。



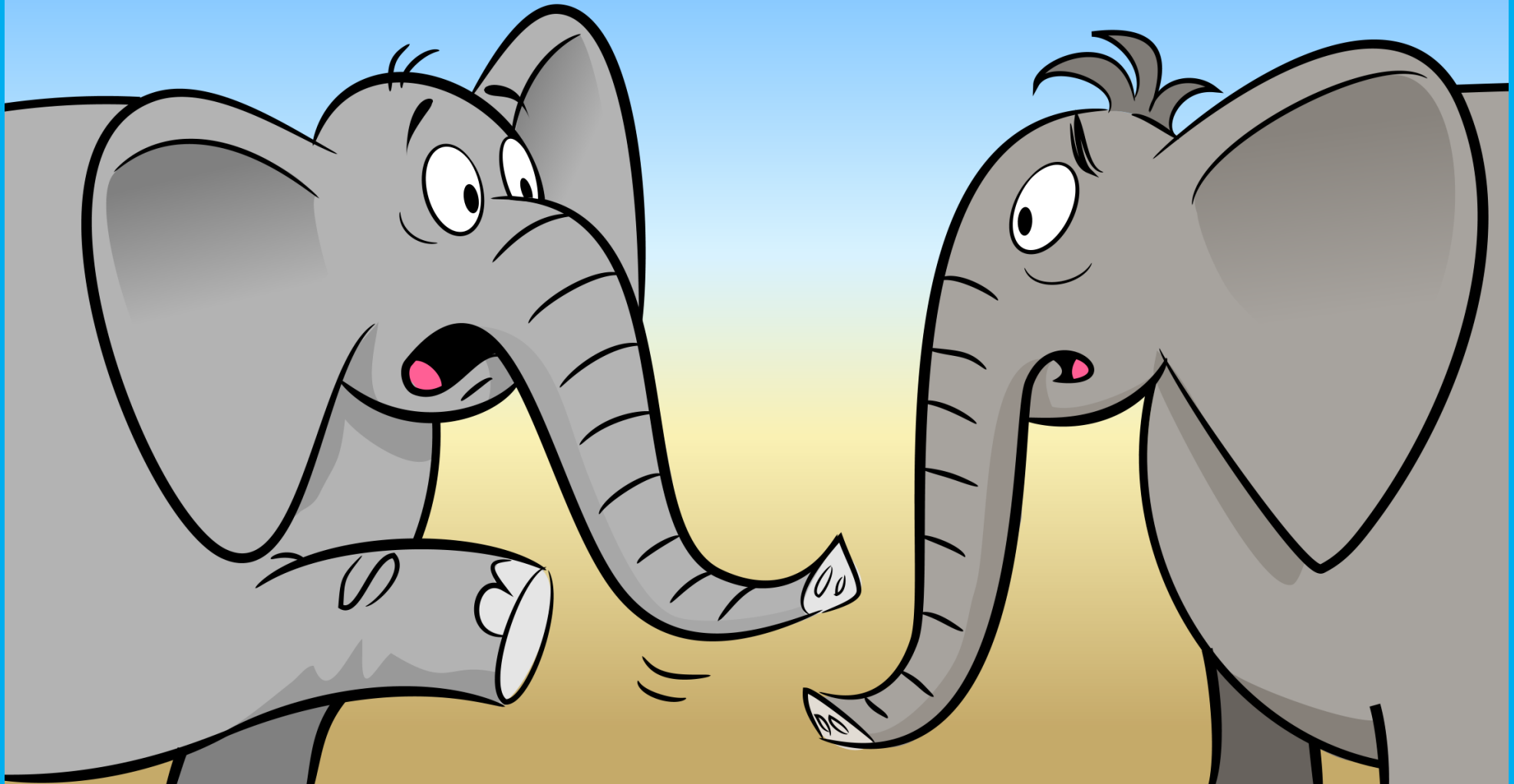
「ふつうは ^{ひとり}一人でやるわよ。でもね、今日は ^{きょう}マタリのお母さんから、^こ子ゾウたちが ^た食べれるように、^{おお}大きな ^{えだ}枝を ^{おろす}下ろすのを ^{てつだ}手伝ってもらえないかと ^{ねが}お願いされたの。大きな ^{おお}仕事だし、^{しごと}運ぶのも、^{おも}重くて ^{たいへん}大変だわ。それで、あなたたち ^{とう}2頭が ^{いっしょ}いっしょにやれば、^{しごと}仕事が ^{はんぶん}半分の ^{じかん}時間で ^お終わって ^{いい}いいなと ^{かあ}母さんたちは ^{おも}思ったのよ。」 ^{かあ}母さんゾウの ^{カラーナ}カラーナが ^{せつめい}説明しました。

「う～ん、わかったよ。手伝わなくちゃ ^{いけない}いけないなら、^{てつだ}手伝うよ。だけど、その ^{まえ}前に ^{まず}まず、^{みず}水たまりに ^い行って、^{とも}友だちの ^{リング}リングと ^{およ}ひと泳ぎさせて。」 ^だいら立ちまじりの ^{こえ}声で ^{こた}トロンゴは ^{こた}答え

ました。そして、^{みず}水たまりの ^{ほう}方へ ^{いそ}急いで ^む向かいながら、「じゃあ ^{かあ}母さん、^{あと}後でね。」と ^い言いました。

^{みず}水たまりに ^つ着くと、^{リング}リングは ^{どこ}どこにも ^{みあ}見当たりません。

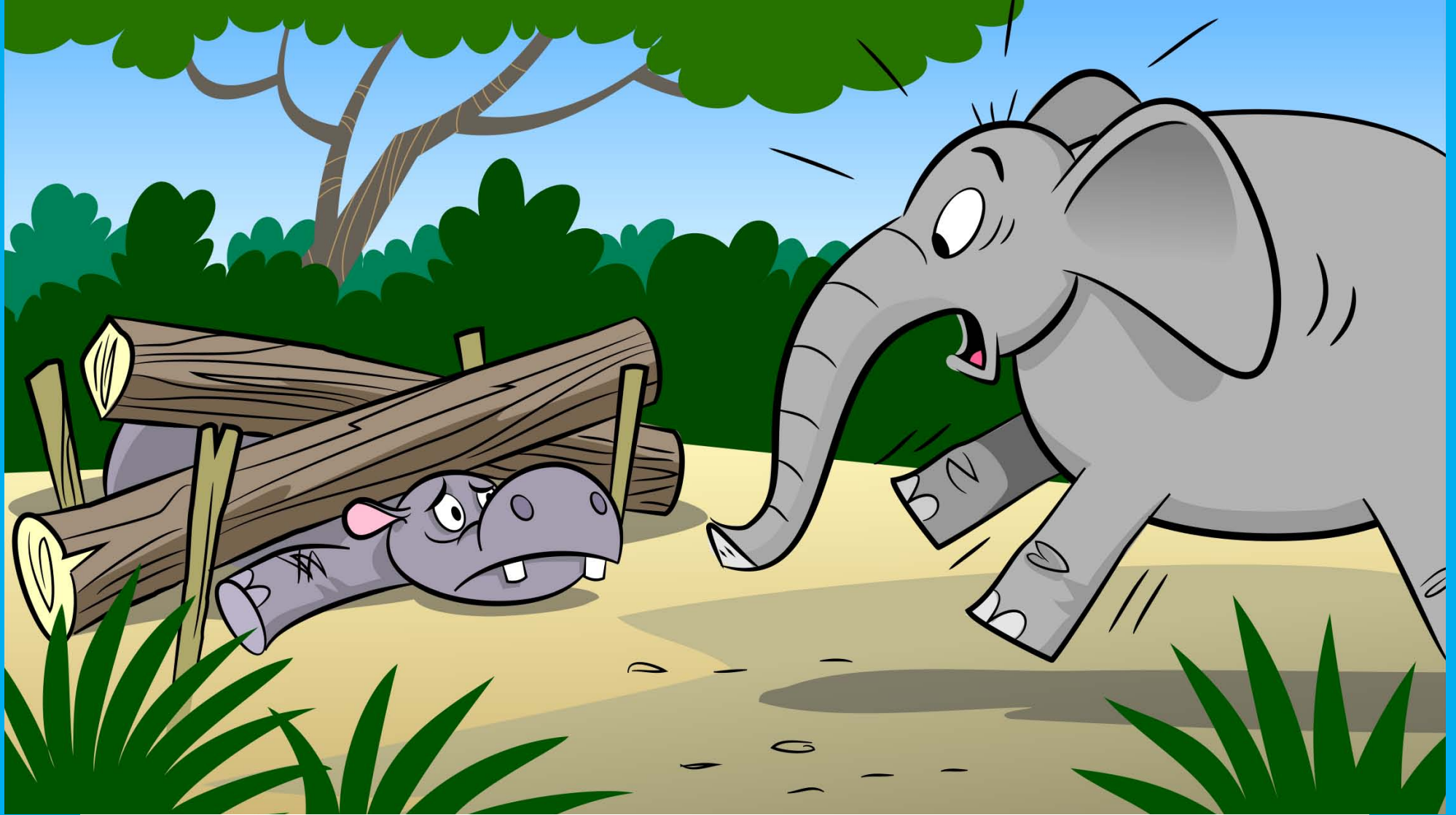
(いったい、^{リング}リングは ^{どう}どうしたんだろう?) ^{トロンゴ}トロンゴは ^{あれ}あれこれと ^{おも}思いめぐらしました。(いつも ^{あさ}朝には ^{ここ}ここに ^{いる}いるのになあ。 ^{いま}今まで ^{ここ}ここに ^いいなかった ^{こと}ことなんて、^{ない}ないぞ。きっと、^{ケガ}ケガでも ^{している}しているのに ^{ちが}ちがいない。^{リング}リングを ^{さが}さがし出して、^{なに}何か ^{して}してあげられる ^{こと}ことが ^{ない}ないか、^み見てこなくっちゃ。)



(もしかしたら、マタリが リンゴを 見かけたかも。マタリは、ぼくが 行ったことも ないような 場所を あちこちと 探検しているから、もしかしたら、いっしょに リンゴを さがしに 来てくれるかも。)

トロンゴは、すぐさま 群れに もどって マタリを 見つけると、緊急事態が 起きた ことを 話しました。そして、いっしょに リンゴを さがしに 行く 時間があるか どうか、聞きました。マタリは、

「喜んで 手伝うよ。」と 言ってくれました。「遠くには 行っていないはずだよ。だって、リンゴは 遠くに 行った ことは 1度も ないもの。今すぐ、行動開始だ。君は あっちの 方から さがして。ぼくは こっちの 方から さがすから。そしたら、どこか 中間地点で 会えるよ。もし 君が とちゅうで リンゴが ケガをしているのを見つけたら、そこに いてね。そのうち ぼくも そこを 通るから。もし ぼくが 先に 見つけたら、同じように するからね。」



2頭の若いゾウは、リングを見つけるための調査に乗り出しました。まもなく、トロンゴはあわれなカバを見つけました。リングは、密りょう者のワナにかかって、動けないでいたのです。リングは、見るにもかわいそうな様子でした。トロンゴは、とてもきどくおもいました。そして、できることがないか、考えました。

「一体、いつからここに^{いつたい}いるんだい、リング？」 トロンゴが^き聞きました。

「タベはのどかな^{きぶん}気分^{たもの}でぶらぶらと^{さがしまわ}食べ物をさがし回っていたら、急に^{きゆう}このワナにはまっちゃったんだ。もう何時間にもなるんだけど、どうしたらいいかわからなくて。おなかもすいたし、暑いし、のども^{あつ}かわいちゃったよ。もう前^{まえ}みたいには^{わか}若くないからなあ。この^{した}下から^でぬけ出たくってしょうがないんだ。ねえ、トロンゴ、^{たす}助けてくれないかな？」

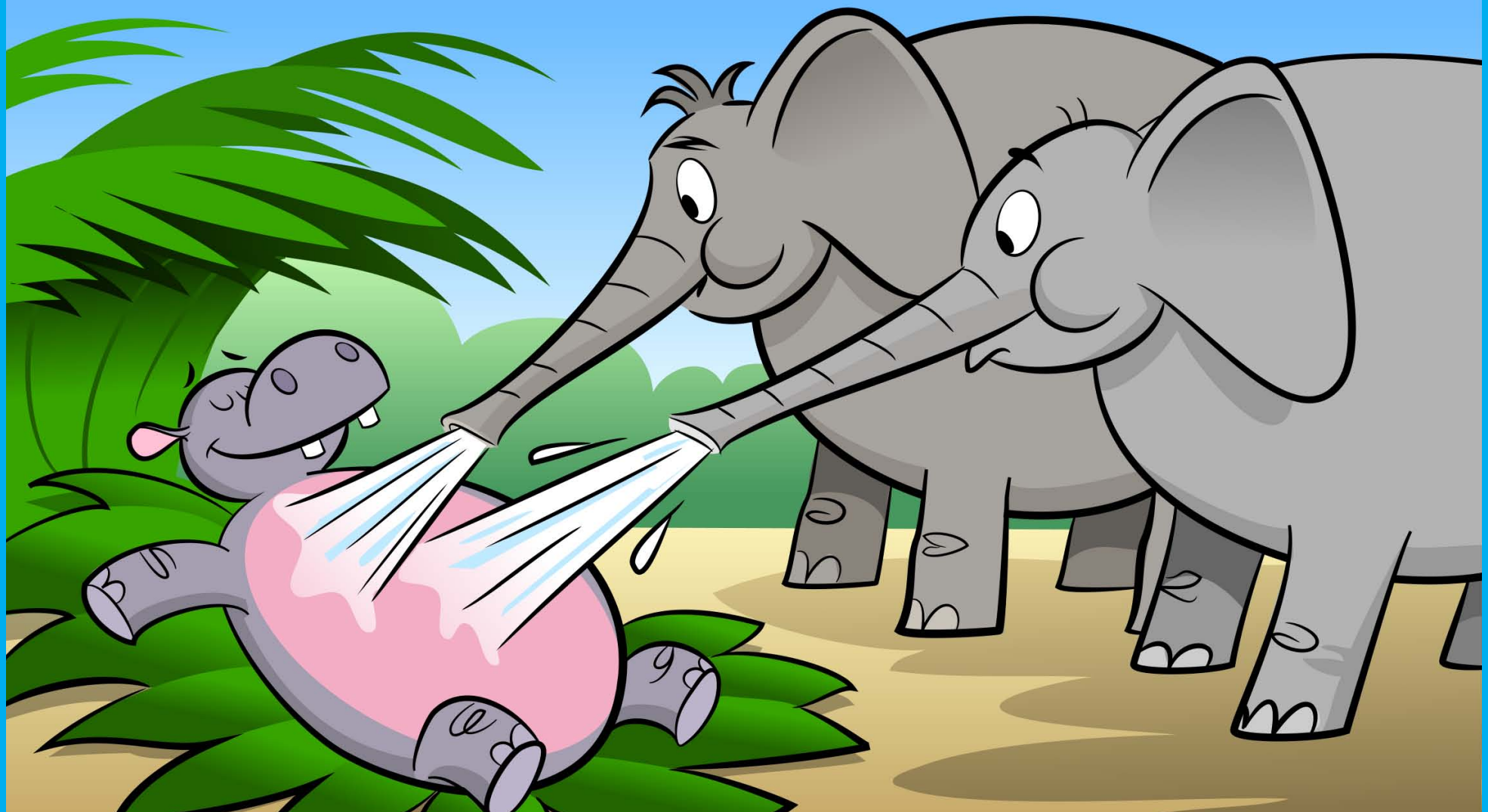


トロンゴは、ワナを^し仕かけてある^{まるた}丸太の^{いっほん}1本に^{じぶん}自分の^{はな}鼻を
ぐるりと^ま巻き付けて、^{ちから}力いっばい^ひ引っ張りました。^{まるた}丸太は^{すこ}少し
^{うご}動いただけで、^{ちから}どけるためには^た力が^{たり}足りません。

(^{じぶん}自分だけで^{なん}何でも^{かんが}できると^{あさ}考えるなんて、^{あさ}ぼくは^{あさ}浅はか
だったなあ。^{ひつよう}ぼくたちが^{とき}おたがいを^{とき}必要とする^{とき}時もあるんだって
ことが^わ分かったよ。^わぼくたち^わゾウが、^わいっしょに^わやらなくちゃい
けない^わこともあるんだね。^わぼく、^わだれの^わ助けも^わいらないとか、
ほかの^わゾウも^わぼくの^わ助けが^わいらぬはずだなんて^わ考えたりし

て、^{いま}うぬぼれてたなあ。でも、^{いま}今は^{じぶん}自分だけじゃ^{なに}何も^{なに}できない。
^{はや}早く^こマタリが^こ来ないかなあ。そしたら、^{おち}いっしょに^{おち}この^{まる}重い^{まる}丸
太を^{うご}動かせるかもしれない。)

そう^{おち}思いながら^{あたま}頭を^あ上げると、^あうれしい^あことに、^あマタリが^あこ
ちらへ^あやって来るでは^あありませんか。^あまたたく間に、^あマタリは^あト
ロンゴの^あとなりに^あ着き、^あ2頭で^あいっしょに、^あせい^あいっばい^あ力を
こめて、^あ丸太を^あ動かしたのです。そして、^あリングは^あ自由に^あなりました。



「ありがとう！」 リンゴは ^{こゑ} 声を ^あ 上げました。「君たちみたい
に ^{とも} いい友だちが ^{ほんとう} いて、^{かんしゃ} ぼくは ^き 本当に ^{きもち} 感謝の ^{きもち} 気持ちで ^い いっぱ
いだよ。ぼくを ^ま さがしに ^き 来てくれて、そして、いっしょに ^{ぼく} の
ことを ^{たす} 助けてくれて、^{ほんとう} 本当に ^{ありがとう} ありがとう！」

リンゴは ^ご その後、^{なんにち} 何日も ^{やす} 休まなければ ^{なり} ませんでした。
^{いっほん} 1本の ^{あし} 足に ^な ケガを ^な して、それが ^{なお} 治るのに ^{じかん} 時間が ^か かった
からです。その間、^{あいだ} 仲間 ^{なか} 良しに ^な った ^{どう} 2頭の ^{ゾウ}、^{マタリ} と ^{トロ}

ンゴは、ずっと ^{リンゴ} の ^{そば} に ^つ いていました。食 ^た べ物を ^{はこ} 運
んできたり、鼻 ^{はな} いっぱいに ^{みず} 水を ^く んできて ^{リンゴ} に ^か けてあ
げたりも ^{した} のです。2 ^{どう} 頭は ^ひ その日、^{たいせつ} 大切な ^{きょうくん} 教訓を ^{まな} 学びまし
た。いっしょに ^{はたら} 働 ^{たら} くなれば、ずっと ^た たくさんの ^{こと} が ^{でき} るとい
う ^{こと} です。それに、2 ^{どう} 頭は ^{なに} 何よりも ^{おお} 大きな ^{はっけん} 発見を ^{しま} しました。
おたがい ^{どうし} 同士 ^{ひつよう} が ^{必要} だとい ^{こと} を ^で す。